

一般質問

どう発展させるのか？

これからの農業！

(自民クラブ)

問

当市では、農業の現状を調査・研究を行い、各般の計画を実施しているが、多くの農業従事者は、これからの農業に対して期待と同時に不安を抱いているところである。

食料自給率70パーセントを誇る当市の農業を、今後、どのように維持向上させていくのか。



たわわに実る稲穂

答

当市では、地域資源を活かした内発型の産業振興をまちづくり戦略の主軸に位置付け、西部地域の農業生産力と東部臨海部の工業集積との融合を目指した「水と食」「食と農」をテーマとする産業振興施策の展開に鋭意取り組んでいる。

1次産業の活性化なくして地域の振興や地域住民の幸せはありえないとの思いから、「食」を切り口とした産業政策を推進するため、食の情報発信拠点施設として「食の創造館」を整備し、地域食材の情報発信や西条ブランドの開発など、さまざまな取り組みを展開している。

農業をはじめとする1次産業の持続的な発展のためには、個別の取り組みでは限界があり、全体計画を立て総合的な施策を打ち出す必要があると考えている。その大きな柱が地域再生計画としての「食品加工流通コンビナート構想」である。1次産業がただ単に食料品の原材料のみを提供する産業にとどまることなく、食品加工や流通・観光と一体化した総合産業の創出を目指すことで、この地域に元気をもたらしたいと考えている。

このようなことから、この構

想実現に欠かせない、水素エネルギーを利用したMH冷凍・冷蔵装置の活用実証実験をはじめ、地域資源の持つ力を余すことなく活用するため、協定大学との連携によるフィールド大学構想の推進や、知的財産権保護に向けた取り組みなど、「産・官・学」「農・工・商」の連携をよりいっそう推進しているところである。



松山自動車道・石鎚山サービスエリア(上り)

石鎚山サービスエリアにスマートインターチェンジ整備の考えは？

(自民クラブ)

問

国土交通省は、高速道路のサービスエリア・パーキングエリアなどから乗り降りができる自動料金収受システム(ETC)搭載車の専用ゲートを設置したスマートインターチェンジの導入を進めており、全国で本格的な導入や社会実験を実施している。



松山自動車道・石鎚山サービスエリア(上り)

答

石鎚山サービスエリアへのスマートインターチェンジの設置は、高速道路の利便性の向上はもとより、厳しい都市間競争における西条市の都市機能の強化を図る上で必要である。これまで国へ強く要望をしており、国からは心強い技術的な指導をいただいているところである。

石鎚山サービスエリアは、アクセス道路がおおむね整備されていることから、スマートインターチェンジの整備費用は比較的少額で済むのではないかと考えており、引き続き国土交通省にその設置を強く要望していきたい。

こうした中、当市も既存の高速道路の有効活用や地域経済の活性化、交通混雑の緩和などを図るため、石鎚山サービスエリアへのスマートインターチェンジの設置が望ましいと思うが、どのように検討しているのか。

また、スマートインターチェンジを設置することにより、期待される整備効果や、国道11号からの連結に当たり、アクセス道路の改良など周辺の整備改善の必要性について、どのように考えているのか。

検討を行いたい。